

東邦大学学術リポジトリ

Toho University Academic Repository

タイトル	東邦大学医療センター佐倉病院泌尿器科
別タイトル	Department of Urology, Toho University Sakura Medical Center: Move Forward!
作成者(著者)	鈴木, 啓悦
公開者	東邦大学医学会
発行日	2023.12.01
ISSN	00408670
掲載情報	東邦医学会雑誌. 70(4). p.176-177.
資料種別	学術雑誌論文
内容記述	教室(診療科)紹介
著者版フラグ	publisher
JaLCOI	info:doi/10.14994/tohoigaku.2023_032
メタデータのURL	https://mylibrary.toho-u.ac.jp/webopac/TD26346878

教室(診療科)紹介(143)

東邦大学医療センター 佐倉病院泌尿器科

東邦大学医療センター佐倉病院泌尿器科

教授 : 鈴木啓悦
准教授 : 神谷直人
講師・医局長 : 内海孝信
院内講師 : 遠藤 匠

開設と現況

東邦大学医療センター佐倉病院泌尿器科は、1991年6月の佐倉病院開院とともに開設されました。佐倉病院の増床とともに、2010年4月より泌尿器腹腔鏡センターも併設さ

れております。現在、教授1名、准教授1名、講師1名、院内講師1名、助教5名、院内助教8名の合計17名のスタッフにより運営されています(ほか出向中7名)。最近は若手の入局者も多く、ダイバーシティの流れで、毎年女性の入局者もいらっしゃいます。産休・育休や時短勤務などワークライフ・バランスにも配慮した、オンオフの切り替えに配慮した環境整備を心掛けています。

診療内容の特徴

当科の特徴としては、腹腔鏡・内視鏡手術などの低侵襲治療に積極的に取り組んでおり、現在は年間200件を超える腹腔鏡手術(うち約150件はロボット支援手術)や年間300件以上の内視鏡手術(経尿道的手術(TUR)など)を実施しています。腹腔鏡手術の技術認定医が5名、ロボット支援手術の認定医(プロクター)が4名在籍しており、最近では後期研修医の1年目からロボット支援手術の助手として研修しています。尿路結石治療については、経尿管的結石破碎術(TUL)・経皮的腎結石破碎術(PNL)などすべてのアプローチが可能となっており、千葉県内の広い範囲から患者さんをご紹介いただいています。

癌治療に関しては、QOLを重視した集学的治療に取り組んでおり、特に前立腺癌に関しては、鈴木が国際的なコンセンサス会議であるAPCCCのパネルメンバーを務めてい



図1 佐倉病院泌尿器科集合写真① 前列左から、遠藤匠、神谷直人、鈴木啓悦、内海孝信、岡了、後列左から、鈴木一弘、野呂卓秀、飯島正太、鈴木悠太、田中辰樹(初期研修医ローテーション)、加藤精二、宋本尚俊



図2 佐倉病院泌尿器科集合写真② 左から横塚大和, 山崎賢太郎, 杉崎裕香, 岡崎太郎, 高橋宙己

る関係もあり, 毎年多くの新規薬剤の臨床試験にエントリーしており, その成果は New England Journal of Medicine や Lancet Oncology など公表されています。

また院内他診療科とも連携して, 幅広い泌尿器科学の各領域に専門医を配置して, 多くの専門外来(泌尿器腫瘍・腹腔鏡・内視鏡・排尿機能・内分泌・尿路感染症・男性機能など)を設置して, 質の高い医療の貢献に努めています。

研究・学術活動

学術面に関しては, 診療をベースに泌尿器腫瘍・尿路結石症・排尿機能・尿路感染症などの領域を中心に積極的に学会発表・論文公表しているほか, 競争的研究費についても積極的に応募して取得しています。今年度に関しては, 2024年1月に第24回関東ホルモンと癌研究会をがん研究会有明病院吉田記念講堂で, 2024年2月に第28回千葉内視鏡外科学会を三井ガーデンホテル千葉にてそれぞれ主催させて頂く予定となっております。

医療連携への取り組み

2011年より, 泌尿器科医のみならず, かかりつけ医の先生方との連携を推進するために, <千葉県中央医療連携協議会>を周辺3医師会のご協力のもと立ち上げて年1回カン

ファレンスを開催しています。また年1回年報と広報を兼ねた<東邦大学医療センター佐倉病院泌尿器科たより>を作成し, 診療・研究内容などを広報して, 医療連携を促進しています。医局員の出張先も佐倉病院から原則20km圏内に集中させる事で, 紹介・逆紹介を推進し, 地域中核病院としての機能強化に努めております。

おわりに

医療は進化を続けており, 常に次世代に向けた過渡期にあると言えます。これまでの診療成績について定期的に振り返りながら, さらに未来に向けて進んでいく事が重要と考えております。当科の信条として<Move Forward!>を掲げています。さらなる前進を目標に, 医局員一同協力して, 診療・研究などに取り組んで参りたいと存じます。教育に関しては, 大森病院・大橋病院の泌尿器科と協力しながら, 分担して対応しています。3病院それぞれの専門領域の違いもあり, 多様化する泌尿器科診療に対応するためにも, 今後さらに協力し合って, 東邦大学医学部泌尿器科学講座が発展するように努めていきたいと考えています。

(鈴木啓悦)

DOI : 10.14994/tohoigaku.2023-032